

緊急情報

## 大豆農事メモ

平成 28 年 8 月 2 日  
松任市農業協同組合

新潟地方气象台 平成 28 年 7 月 28 日発表

☆☆ 向こう 1 か月の天候の見通し北陸地方(7 月 30 日～8 月 29 日)☆☆

- 平年と同様に晴れの日が多く、平均気温は高い確率 50%、降水量は平年並の確立 40%、少ない確率 30%となっています。
- このため、向こう 1 か月の気温が高く、日照時間は多いでしょう。

### ポイント① 水分補給で根・茎・葉ともに元気に = 品質・収量アップ

- 大豆は、開花期から8月下旬までが、最も水分を必要とする時期です。
- 開花期以降、3日以上晴天日が続いたら、土の乾き具合に応じてうね間かん水を行きましょう。  
なお、かん水は短時間で行い、圃場全体に水がいき渡ったら、速やかに排水しましょう。
- うね間や額縁排水溝と排水口の連結を確認し、手直しを忘れずに行いましょう。

土の乾き具合

葉の返り具合

うね間かん水の実践



葉が巻いてから  
では遅い!!

**7月末から降雨の少ない日が  
続いています!**  
**すでに土壌が乾き、葉が返っ  
ている場合は、急いでうね間か  
ん水しましょう!!**

ここ2年間の大豆の収量向上は、8月の降雨が大きく寄与しており、**本年は、過  
去2年のような降雨がない場合、うね間かん水の有無、実施の回数が収量を左右し  
ます。**

### 干ばつによる大豆への影響は・・・?

葉の裏返りや落花・落莢(らっきょう)などが目立つ。根粒の窒素固定活性や光合成、根の養分  
吸収力の低下が大きい。

特に大豆は吸収窒素量の5割程度を根粒により空気中の窒素を固定して利用しているが、根  
粒は乾燥に著しく弱く、わずかな干ばつでも窒素固定は低下してしまう。これを避ける対策と  
して、うね間かん水は非常に重要である。

### ポイント② 防除の徹底で品質・収量アップ

**「ウコンノメイガ」の発生が目立っています!!**

**多いほ場では早期に随時防除を実施しましょう!!**

#### ☆防除の目安

「大豆1株当たり平均葉巻数6～8枚以上」

#### 被害の状況

大豆ほ場への成虫(蛾)の飛来は、7月上旬頃から大豆の葉に産卵します。孵化した幼虫は、大豆の葉を巻き、内側の葉をある程度食害した後、別の葉に移動して加害を繰り返します。  
なお、幼虫による葉巻は、8月上旬から増加し、9月上旬頃まで続きます。被害が大きいと減収に繋がります。



幼虫に加害された大豆の葉(葉巻)



葉巻を広げた時の幼虫

#### 防除薬剤

薬剤名	10a 当り使用量	使用回数
プレバソフフロアブル5	100～300L 〔希釈倍数:4000倍薬量25～75ml〕	2回以内 (収穫7日前まで)
サイアノックス粉剤	4kg	2回以内 (収穫7日前まで)

- ① 営農のてびき記載の基幹防除剤は、ウコンノメイガに適応されていません。
- ② 圃場内で部分的に被害がある場合は部分防除も可能です。その際は、散布面積を大きめに散布して下さい。
- ③ 成虫は、生育が旺盛な圃場を好んで集中的に産卵する傾向があるため、そのような圃場は幼虫の加害も多い場合があります。
- ④ 被害葉の割合が80%以上になると、くず粒の増加や小粒化によって50%程度の減収になった事例があります。